

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2001-501812(P2001-501812A)

【公表日】平成13年2月13日(2001.2.13)

【出願番号】特願平10-504522

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

C 0 8 L 89/00

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 8 L 89/00

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月12日(2004.4.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成16年4月12日

特許庁長官 殿

## 1. 事件の表示



平成10年 特許願 第504522号

## 2. 補正をする者

名 称 ユニバーシティ・オブ・ユタ・リサーチ・  
ファウンデイション

## 3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区  
ユアサハラ法律特許事務所

電 話 3270-6641~6646

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫



## 4. 補正対象書類名

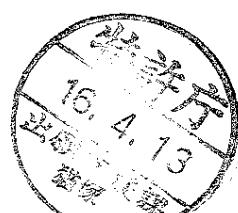
請求の範囲

## 5. 補正対象項目名

請求の範囲

## 6. 補正の内容

別紙の通り



(別紙)

請求の範囲を次の通り補正する。

- 『1. 有効量の、疎水化され正に荷電した生体適合性ポリマー；有効量のリポタンパク質；および有効量の選択した核酸；を含む複合体を含む、選択した核酸を標的宿主細胞内へ運搬するための組成物。
2. 疎水化され正に荷電した生体適合性ポリマーが、疎水性炭素鎖部分に共有結合した、正に荷電した生体適合性ポリマーを含む、請求項1記載の組成物。
3. 正に荷電した生体適合性ポリマーがポリ(L-リジン)を含む、請求項2に記載の組成物。
4. 疎水性炭素鎖部分が、C<sub>14</sub>～C<sub>18</sub>の飽和および不飽和直鎖よりなる群から選択される構成分子である、請求項2または3に記載の組成物。
5. リポタンパク質が、低密度リポタンパク質、高密度リポタンパク質および超低密度リポタンパク質よりなる群から選択される、請求項1ないし4のいずれか1項に記載の組成物。
6. 選択した核酸が、プラスミドまたはオリゴヌクレオチドである、請求項1～5のいずれか1項に記載の組成物。
7. 複合体が、約1重量部のステアリル-ポリ(L-リジン)、約1重量部の低密度リポタンパク質、および約1重量部のプラスミドまたは約0.001～0.05重量部のオリゴヌクレオチドのいずれかを含む、請求項6に記載の組成物。
8. Ca<sup>2+</sup>およびMg<sup>2+</sup>ならびにその混合物よりなる群から選択される有効量の二価カチオンをさらに含む、請求項1～7のいずれか1項に記載の組成物。
9. 組成物が、約+2～15 mVの表面電荷を有する、請求項1～8のいずれか1項に記載の組成物。
10. 組成物が約200～400 nmの平均直径を有する、請求項1～9のいずれか1項に記載の組成物。

11. 選択した核酸により *in vitro* で細胞を形質転換する方法であつて：

- (a) 請求項1～10のいずれか1項に記載した組成物を用意し；
- (b) 細胞が選択した核酸をインターナリゼーションするように、細胞を有効量の組成物と接触させ；そして

(c) インターナリゼーションされた選択した核酸を有する細胞を、その細胞の増殖に好ましい条件下で培養する；  
工程を含む、前記方法。』